

日程	平成29年10月2日(月)
視察先・視察内容	静岡県磐田市 スポーツ推進計画について

視察要点 Jリーグジュビロ磐田、ラグビートップリーグヤマハ発動機ジュビロのホームタウン。陸上競技やサーフィンなど多彩なスポーツを楽しめる環境がある。また卓球日本代表の水谷準選手・伊藤美誠選手など世界レベルの選手の出生地。スポーツが盛んな磐田市にて「スポーツの推進計画」、施設運営、スポーツイベント、スポーツツーリズム等、スポーツでまちづくりの取り組み・成果・課題を視察。

視察内容 スポーツ推進計画について28年度実績

子どもの運動・スポーツ機会の充実

①親子ふれあい教室

対象・・幼稚園保育園年中・年長児・小学校1, 2年生
児童の親子(全10回開催)
内容・・集団の中で協力しあい、子どもが自ら進んで運動できるように、親子運動を中心とした教室。

②わくわくスポーツ教室

対象・・小学校3, 4年生児童(全10回開催)
内容・・運動の苦手な子や運動する機会の少ない子どものために、運動に楽しみ進んで運動ができるきっかけを提供するための教室。

③幼児合同スポーツ教室

対象・・年長児(全21回開催)
内容・・ジュビロ磐田の施設で、複数園が一緒に活動。普及スタッフの指導のもとにサッカーを楽しむ教室。

④ラグビー・タグラグビー体験教室

対象・・年長児(全35回開催)
内容・・ヤマハ発動機ラグビー部の協力のもとでのラグビー体験教室。

磐田市では、指導者の確保・育成への取り組みでは、体育協会主催の指導者養成講座や講習会への支援を行っている。また中学校部活動への外部指導者派遣も積極的にすべての中学校で行われている。(全10校に26名)
磐田市の小中学校は芝生のグラウンドをもつ学校が多く、恵まれた環境の中でスポーツが実践されている。

ライフステージに応じた誰もが運動・スポーツを親しむ機会の創設

成人期における運動・スポーツへの関心を高める取り組み

①いわたスポレク健康フェスティバル

体育の日に開催。自由参加で、陸上競技場では走る・体力測定・ストラックアウトなど、体育館ではトランポリンやボクシング体験など、また筋肉量測定など健康増進目的のコーナーも多数あり、年代を問わず誰でも参加できる行事となっている。
岡崎市で行われているような学区対抗の市民体育祭は現在実施されていない。

②ニュースポーツクラブ

全2回開催。40歳以上を対象に日頃のストレス発散とニュースポーツの体験を目的とする。少人数での開催であらたなスポーツへのきっかけづくりになっている。



③磐田市5地区選抜グラウンドゴルフ大会
3月開催。各地区予選を勝ち抜いた96チームが参加。
新たなスポーツ地域交流の機会の創設。三世代での
参加チームもあり、世代を超えた交流となっている。

④キンボール教室
全4回開催。ニュースポーツの紹介。

⑤キンボール大会
キンボールの普及と参加チーム相互交流。



また交流センター等で生涯スポーツにつながる体育指導講座は28年度は104回開催され、子どもから高齢者まで幅広い層を対象に行われている。

運動・スポーツを支える団体、スポーツクラブの支援・育成

総合型スポーツクラブへの活動支援、また設立に向けた団体への助言をおこなっている。そして特徴的なものとして「磐田スポーツ部活」がある。中学生のスポーツ活動の機会充実と教職員の負担軽減を目的とし、地域団体・大学・企業等と連携し、学校部活動の枠を超えた公認のクラブとしている。

平成28年度活動開始の「スポーツ部活」には現在、陸上競技部とラグビー部がある。各学校の生徒数が減り、部活動の種類が減少したことも理由のひとつであるが、陸上競技では磐田陸上協会や静岡産業大学の指導協力、ラグビーではヤマハ発動機ラグビー部の指導協力を得て、より専門的なスポーツ環境の整備がされている。また専門競技場を使用して活動することでの育成効果も期待される。

トップレベルのスポーツを体感する機会の創出

①ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦事業
スポーツに関心を持たせるきっかけづくりとともに、地元チームへの愛着やふるさと磐田を誇りに思う気持ちを育ませる目的がある。
市内の小学生5年生・6年生対象で行われた。
現在は高校生対象の観戦事業があり、事前に高校内での応援指導などがあり盛り上がっている。



②ジュビロ(サッカー・ラグビー)ホームゲーム観戦招待事業

ホームゲーム6試合対象で、プロスポーツを身近に体感できるような事業。
市内全小学校中学校を対象。無料チケットの負担はサッカーはジュビロ400円磐田市600円負担、ラグビーは全額ヤマハ発動機負担でまかなわれている。

③ジュビロ磐田アウェーゲーム応援バスツアー

平成28年度は豊田スタジアムでのゲームに定員1000名、バス24台で行われた。
一体感の醸成や郷土愛の高揚のある市民一丸となつての応援がなされた。

④ジュビロ(サッカー・ラグビー)の小中学校、地域団体との交流事業

⑤リオ五輪出場選手激励会、パブリックビューイング、報告会等の開催支援

卓球・水谷準選手、伊藤美誠選手 陸上・加藤修也選手

上記選手の出場時にはパブリックビューイングを実施した。

メダリスト水谷選手、伊藤選手のパレードには約31000人の参加者があった。(磐田市の人口約16,500人)

⑤国際的・全国的な大会やキャンプ地誘致に関する取り組み

平成28年度は全日本級別サーフィン選手権大会の開催支援、東京五輪サーフィン競技会場誘致活動支援、2016磐田U-12国際サッカー大会、磐田市長杯争奪車椅子ツインバスケットボール大会の開催支援を行った。

運動・スポーツ施設の整備・充実

磐田市では、体育館6施設、野球場6施設、サッカー場4施設、プール3施設、陸上競技場1施設、ゲートボール場1施設、グラウンド10施設、テニスコート6施設、相撲場弓道アーチェリーグリーンボール各1施設ある。



磐田スポーツ交流の里 ゆめりあ

下記写真以外に管理棟、芝生広場、ジョギングコースあり



サッカーグラウンド
(天然芝)



多目的グラウンド
(人口芝)



フットサルコート2面
(人口芝)

所感

スポーツの観光資源化やスポーツツーリズムへ取り組むべく、視察を行った。サッカーとラグビーのプロチームが存在する磐田市は参考になる先進事例が多くあり、岡崎市としてできるものを一つひとつ提言していきたい。

スポーツ推進計画の内容については、さほど違いはなく、1週間に一度以上スポーツをする成人の割合は岡崎市の高。企業が多く、各企業にスポーツ部が存在することや、一般市民も学校開放などを利用し、地域チームが数多く存在することも一因である。またマラソンや水泳など個人スポーツへ取り組んでいる人が多い。

スポーツをしなくても観戦することでスポーツに携わる場合もあり、岡崎市はスポーツライフが定着してきているといえる。今後はスポーツイベントの開催内容の計画が必要であると感じた。

例えば、磐田市でのスポレク健康フェスティバルは市民誰もが当日参加でき、子どもからお年寄りまで三世代で楽しめる参加無料の体育イベントとなっている。

ジュビロ磐田メモリアルマラソンでは平成28年度は10,000人近い参加があり、7割が市外、そのうち2割が県外からの参加者となっている。

ツインバスケットボール大会、女子サッカー全国大会、タグラグビー大会など、全国的な大会を毎年開催することで、スポーツの観光資源化を意識した取り組みの現れと感じた。



岡崎市には、全国的・世界的に活躍している選手がいて、サッカーJFL・社会人野球の競合チームもあり、企業チーム、地域チーム、数多くのスポーツに携わる人が多く、今後の岡崎市の観光戦略のひとつの柱になり得る状況がある。

またウォーキングの取り組み意向が高いことで、地域の名所等を歩くイベントや各地域でウォーキングクラブの支援の必要性や磐田市でのグラウンドゴルフ大会にもあるように世代を超えて交流できるスポーツイベントの開催の必要性を考慮にいれて、大会内容への提言、今後の「岡崎市スポーツまちづくり」への計画要望を作成していきたい。